

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年10月30日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2071100321 | | |
| 法人名 | 有限会社 ウェルフェア・こだま | | |
| 事業所名 | グループホーム・こだま | | |
| 所在地 | 中野市大字草間1071番地4 (電話) 0269-23-3777 | | |
| 評価機関名 | コスモプランニング有限会社 | | |
| 所在地 | 長野市松岡1丁目35番5号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年10月30日 | 評価確定日 | 平成19年11月30日 |

【情報提供票より】(平成19年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|---------------------|------|
| 開設年月日 | 平成18年3月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 | 7.5人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|----------|----|------|
| 建物構造 | 鉄骨造木造 造り | | |
| | 2階建ての | 1～ | 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 40,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷金 | 有() 円) (無) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | (有) (100,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / (無) | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,200 円 | |

(4) 利用者の概要(平成19年9月17日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 9名 | 男性 | 2名 | 女性 | 7名 |
| 要介護1 | 2 | 要介護2 | 5 | | |
| 要介護3 | 0 | 要介護4 | 1 | | |
| 要介護5 | 1 | 要支援2 | 0 | | |
| 年齢 | 平均 82.7歳 | 最低 | 73歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | | |
|---------|---------|---------|
| 協力医療機関名 | ・北信総合病院 | ・宮本歯科医院 |
|---------|---------|---------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年3月に管理者の住居と同じ敷地内に開設された新しいホームである。同所で30年以上隣組・自治会活動を共にしてきたことで地元の方々は、管理者を通じて「こだま」の存在を受け入れている。開所式に隣組の方々に参加していただき、地域の一員となった。「こだま」独自の運営スタイルが出来上がりつつあるように感じた。最大の特徴に「音楽療法」を挙げており、毎日の生活の中で、合唱・合奏したり、BGMで生のエレクトーンを流すなど、心身の活性化を図り、潤いのある生活を送っている。毎日の生活を自分たちの「手」と職員の手とで共に活動する場面が多くあり、それが入居者の生活の張り合いになっている。入居者も職員も生き生きと輝いていた。今出来ることを継続支援しつつ、重度化へ向けてのあり方等も更に検討していただきたい。訪問調査時、入居者から何回も「此処はいい所だからお入りください」と誘われた。そんな入居者の気持ちがわかるような快適なホームである。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 開設が18年3月1日で今回が第1回目の外部評価であった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が初めての自己評価を行った。医療・食事・介護に分けそれぞれの分野を評価した。空いた時間に、職員同士の話し合いなどが繰り返し行われた。自己評価することでサービスの振りかえりと自信につながり、今後のやり方などの工夫も考えられる機会となった。 |
| | ② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2~3ヶ月に一回の割合で行われている。毎回ホームの行事内容の説明に始まり議題を決めて話し合いを行っている。災害・防災時の地域住民の協力体制などが今後の課題として挙げられている。 |
| 重点項目 | ③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員の異動は開設以来現在まで無く、入居者・家族との顔なじみの関係が築かれている。入居者からの要望・苦言があった時は定例会にて全員に伝え、改善に努めている。家族からは家に居た時とは変わった、落ち着いた、良くなっていると驚きと感謝の言葉も聞かれている。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 小・中学校の行事への参加をしている。ボランティアの受け入れも積極的に行われている。近くのデイサービスに出向き利用者とも交流している。農作物の差し入れなども多くある。また、お祭りなどの神楽を舞う住民の方が自主的にホームに立ち寄り披露してくれるなど、地域の中に存在が認められてきている。職員は、今以上に認知症への理解を深めていただくことが必要と感じ、地域への働きかけ方法を模索中である。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「高齢者がやすらぎと喜びのある毎日を送りたい。安心と尊厳のある生活を維持し・・・」とあるように、毎日の生活の中で実践されている。 | ○ | 18年度より地域密着型サービスになったことを機会に、地域の中での生活も理念に盛り込まれることを望みます。また、地域に発信するためにも、理念が簡潔に分かるような表現も必要ではないかと思われる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者は開設時、全職員に理念を説明している。また、定例会など話し合いの機会にも伝えている。職員はホームの理念を理解し、毎日の支援に活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 法人代表者の居宅が同じ敷地内にあり、30年以上自治会との付き合いがあることから、小・中学校の運動会等の行事には招待されている。地元地区のお祭りの際の神楽がホームに立ち寄って舞を披露している。近所の方々からの野菜などの差し入れ等、交流も深まりつつある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 開設後一年がたち、初めての自己評価を行ったことで今までの行動の振りかえりと自信につながった。職員全員の参加で行われ、お互いに空いた時間などに話し合いながら進められた。常に受身だけの姿勢でなく、前向きな姿勢が感じ取れた。 | | |

グループホーム こだま

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員、地域包括センター職員、家族代表、管理者で構成されている。グループホームの活動内容を知ってもらうための働きかけを行っている。ホーム側より老人会への参加希望などもお願いしている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市よりの「介護相談員」の派遣が一回あり、今後継続して受け入れたいとの意向である。事案として冠婚葬祭で急な利用申し込みは可能かとの打診があった。要望があれば受け入れていく方向で進んでいる。 | ○ | 介護相談員の派遣を継続的に受け入れるとともに、ホームの考え方や運営状況、現場の実情を市担当部署に伝え、更に連携をとられるよう期待する。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 年に2~3回「こだま便り」を発行している。病院の付き添いの結果については必ず家族へ報告している。状態に変化などが見られた場合、電話・手紙等で連絡をしている。金銭管理については各入居者の小遣帳があり家族の来訪時に確認を得ている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族からの要望・苦情は開設以来現在までない。入居者より食事に関して苦情が出たことがあった。職員の手作りの食事のため苦情が出たものと思われ、職員に伝達し、各々の職員が料理の自主的な勉強をし、現在は入居者が満足している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 開設以来退職した職員はいない。入居者と職員の馴染みの関係が築かれていることが垣間見られた。入居者と職員とは仕草や雰囲気や意思・感情が伝えられるような良好な関係作りが出来ている。 | | |

グループホーム こだま

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 介護職経験者もいるが多くの職員が初めての介護経験ということから、管理者は職員に研修の機会を多く与えている。また、管理者自らも各種研修に参加をしている。研修を受けた職員は内容を定例会で発表し、他の職員と知識・情報の共有を図っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 北信地域のグループホームでつくっている連絡会に加入し活動している。職員が他のホームへ訪問するなど交流を図っている。悩みごとなどについてもお互いに相談したり、話し合いをする場を設けている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ケアマネジャーからあるいはホームへの直接の依頼などがあるが、いずれも希望者と家族にホームへ一緒に訪問してもらい、雰囲気を感じてもらうため半日ほど過ごしていただき、2回くらい繰り返している。管理者が居宅・病院・施設への訪問をして面談する場合もある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員が食べ物を残したりすると、戦争中の体験話などをしてくれ、残すことはいけないと諭される。逆に職員が入居者の意見により好き嫌いをなくす努力をしている。料理なども作り方、味見などをしていただいている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居する時本人・家族より生活歴の聞き取り調査を行っている。また、日常の生活での会話の中から感じ取った事がらを記録に残している。開設以来入居者と生活を共にする中で気持ちを汲み取ることが出来るようになってきている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の希望や家族の希望などを聞き取り、長期・短期のケアプランを作成している。スタート時より色々模索しながら自分たちにあった方法を見つけ出している。担当者が原案を作成し、職員で話し合い、ケアマネージャーである管理者が完成させている。家族より家では出来なかったことが出来るようになったと喜ばれている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的見直しは3ヶ月で行っているが状態などに変化があった場合は、随時見直しを行っている。家族には介護計画を説明し内容を理解してもらっている。入居者や家族が理解できる表現で介護計画が作成されている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医院への付き添いは原則、家族にお願いすることになっているが、通常受診や健康診断の時、職員が付き添いをすることもある。受診の際には毎日のバイタルチェックを病院に持参している。隣近所から介護のことで相談されることもあり、入浴だけを利用したいとの問い合わせ等もある。 | | |

グループホーム こだま


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 今までのかかりつけ医との関係を大事にして継続している。地域密着型サービス移行以前の入居者が地元市以外で2名居るが、かかりつけ医は継続している。インフルエンザの注射もかかりつけ医でお願いしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 契約時家族の意向も聞き取りしている。毎日の生活の中で、入居者本人の希望も聞いている。ホームとしては家族の協力体制、かかりつけ医との話し合い等により考えて行く方針である。マニュアルは作成されている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 開設時に徹底して職員に伝えている。契約書の中にも秘密保持の項が設けられていて説明をしている。日常生活ではトイレなどの声掛け時に耳元で話しかけている姿が見られた。会話の中にも目上の方に接する態度がうかがえた。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者は毎日の生活が楽しく、やることが沢山ある。入居者の当番表が出来ているくらいに活動的に生活している。クリスマスに発表する歌のバックの絵を貼り絵で作成していた。掃除も洗濯の始末もみんな、ワイワイしながら賑やかにやっている。 | | |

グループホーム こだま

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備から片付けまで一人ひとりの持っている力量に応じて参加していた。味見をしながらうなづく姿や車椅子の方がテーブルを拭く作業、料理を何回にも分けて運ぶ姿、また、入居者同士が食べこぼしを拾ってあげる姿等が見られた。当番の掛け声で食事始まり、会話を楽しみながらいただいていた。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 気の合った入居同士、2~3人位で一緒に入浴を楽しんでいる。大きな給湯式のお風呂で、浴槽の中まで手すりが付いており、移動がしやすいつくりになっている。夏場はシャワー浴の利用もある。理美容は管理者がカラーリングから始まり、カット・バリカンなどでおしゃれの支援をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 毎月4~5回位の外出活動を行っている。大型の福祉車両があるので車椅子の方も全員が参加している。近くのデイサービスへ出向き一緒にコーラスを披露している。小学校・中学校の行事にも参加している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 広い敷地の中に畑があり、入居者の手で最初から収穫まで作業をしている。敷地内が少し坂になっていることが入居者の運動にも役立っている。職員が付き添い、個人で買い物へ行くこともある。レストランでの食事、日帰り温泉の利用なども行われている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 帰宅願望の方が何回かホームを離設したいきさつがある。生活道路がすぐホーム横を通っているため時間帯で玄関の鍵をすることもあ。家族には説明をし了解を得ている。 | | |

グループホーム こだま

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防訓練計画が作られており、実施されている。消防訓練では県職員指導のもと夜間設定で行われた。災害訓練では情報伝達訓練も行われた。同じ敷地に管理者の居宅があることから夜間の場合も心強いと思われる。今後運営推進会議で地域の方の協力をお願いしていただきたい。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 担当職員が献立を作成している。家庭的な献立を目標につくられている。入居した時はおかゆなどの食事しか口に出来なかった方が、現在は他の入居者と同じ食事を楽しめる状態になった。塩分制限の方は主菜で調整している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの1階が外から見ると2階の様に感じられるような丘陵地に建てられている。木で作られた広いテラスに植木鉢が飾られている。バラで有名な中野の地らしく、テラスにはバラが絡ませてあり、花がついているときはさぞかし美しいであろうと想像させる。テラスから見渡せる林は桜の林であり、春は居ながらにして花見が楽しめる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅からの荷物も持ち込まれている。ベッド使用の方もいれば布団の方もいる。入居者の居室は全部同じではなく、少しずつ造りが変わっている。ホームの中に洗濯物が干せるような工夫もしてある。 | | |

※  は、重点項目。